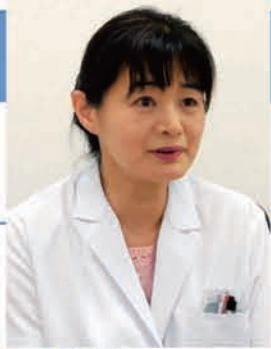


## 京都駅前 ホリイ内科クリニック

院長 堀井 和子 氏



### ■「京都駅前クリニック」として

患者さんが来院されやすい場所に、との思いで、京都駅前のクリニックとして、七条烏丸の京阪京都ビル7階の当地で、2012年2月に開業致しました。

京都駅から徒歩4分、七条烏丸交差点から徒歩1分と便利な場所です。京都駅からは、暑い日、寒い日、雨の日などでも地下道を使えば快適です。

診療時間は9:00-12:00、13:00-16:00、17:00-20:00（木曜は夜診なし）と、朝9:00から夜の20:00まで、長時間の診療時間を設定しております。土曜日も午前は診療しております。

### ■一般外来と専門外来の二本立て

本クリニックの外来は、一般外来と専門外来の二本立てで診療しています。



▲エコー検査機

一般外来は、日本内科学会総合内科専門医が担当しており、プライマリケアも充実しています。予約外の患者さんの受診に関しては、この一般外来で診療致します。一般外来で診察の結果、専門外来での診療が必要と判断した場合には、専門外来を紹介しております。

専門外来は、糖尿病・肥満、甲状腺・骨粗鬆症をはじめとする内分泌代謝疾患、腎臓病、呼吸器疾患、循環器疾患など、専門医による充実した専門外来（予約制）があります。頻度の高い生活習慣病から特殊な内分泌疾患まで対応しております。

### ■充実した設備

本クリニックでは、心臓・血管・腹部・甲状腺などのエコー検査機、内臓脂肪の測定に関して、CTと同等の精度があり、かつ被曝なしで測定できる内臓脂肪測定装置



▲DEXA測定装置

(DualScan)、骨粗鬆症の診断に標準法となっているDEXA測定装置などを備えています。

### ▼内臓脂肪測定装置



また、糖尿病、甲状腺、心不全のホルモン測定装置、血液生化学検査測定装置を備えており、必要時診察前に検査が可能です。

### ■クリニックの診療方針

本クリニックは、3つの診療方針、1. 最新の親切で丁寧な診療 2. 総合内科専門医と各学会専門医が見守る医療の提供 3. 専門医療と高度医療の密な連携医療の提供、に沿って診療しております。

高齢化とともに一人の方が複数の病気にかかる率は高く、総合病院にかかれる方が多いのですが、待ち時間が長く、逆に困っておられる方もおられます。開業医として、こういう患者さんの健康のお手伝いが出来ればと願っております。

患者さんの訴えに耳を傾け、的確な診断・治療に結びつけるように心がけています。

### ■武田病院との連携

武田病院の先生方や地域医療連携室には、日頃から大変お世話になっております。クリニックの範囲を超える重症患者さんをこれまでに何人もお願いしており、いつも迅速に対応していただき、感謝しております。つい先日も気胸の方をお願いし、即入院、翌々日には手術をして頂きました。今後も病診連携のネットワークを大切にしていきたいと考えています。

下京東部西部医師会の先生方にもたくさんの患者さんをお願いしており、またたくさんの患者さんを御紹介頂き、大変お世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



▲待合室では京の街を一望

### 京都駅前 ホリイ内科クリニック

一般外来（予約不要）  
専門外来（予約外来）

〒600-8216

住所 京都市下京区不明門通七条下ル  
東塩小路735番地1 京阪京都ビル7階

TEL：075-353-3900

URL：http://www.kyotoekimae.jp/

最寄駅：京都駅（徒歩約4分）七条烏丸（徒歩1分）

まだまだ、配慮不足や情報不足の点多々あると思いますが、患者様・医療機関の先生方との信頼関係をより一層強固なものへと発展させていきたいと思っております。今後ともよろしくご指導ご協力の程お願い申し上げます。

医療法人 財団 康生会 武田病院

【連絡先】地域医療連携室

小橋 杉本 渡邊 佐須 本井博 吉村 山本 今後 松山

(E-mail) renkei-e@takedahp.or.jp (URL) http://www.takedahp.or.jp/

### 地域医療連携室より

私どもも地域医療連携室の支援業務のひとつとして、入院患者の退院支援業務があります。介入依頼の多くは、主治医または病棟師長から、地域医療連携室の相談員に連絡が入り、在宅介護、転院・施設入所の調整等の退院支援を行っています。

各病棟で病棟スタッフとのカンファレンスを開催し、情報交換・状況確認しながら退院支援を進めています。

退院支援が必要なケースへの適宜介入に向けて、医療チームの中で患者情報の共有と、退院支援に関する介入依頼システムをより効果的に運用すること、病棟の入院生活から地域での生活につなげられるように、コーディネーター的役割を果たしていくことが、今後の課題のひとつであると考えています。

TEL 075(361)1352(直)/ FAX 075(361)1337

◆検査予約センター◆

TEL 075(351)1132(直)/ FAX 075(361)1337



# たけだメディカルニュース

経営理念

●思いやりの心

基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利の尊重
- 地球にやさしい環境づくり
- 信頼の医療に向けて

環境方針

- ①省資源・省エネルギーの推進
- ②廃棄物の3R(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ③安全性・快適性の推進
- ④環境広報活動の推進

発行元

地域医療支援病院  
救急告示病院  
臨床研修指定病院

医療法人財団 康生会 武田病院

京都市下京区塩小路通西洞院東入  
東塩小路841-5

TEL 075-361-1351(代)

Vol. 14

平成26年8月31日 発行

## 整形外科特集

—足の外科・専門外来を開設—

康生会武田病院整形外科の医師として、牧昌弘医長が7月1日から着任しました。

牧医長は、整形外科領域の中で足の分野の研究・臨床を続けてきており、武田病院グループでは初めての「足の外科・専門外来」を開設しました。京都では「足の外科・専門外来」の医療機関は少なく、特に運動中などに起こりやすい足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療では有数の治療実績を誇っています。

整形外科 医長

牧 昌弘 先生

1999年 京都府立医科大学 医学部 卒業

2000年 京都府立医科大学附属病院 研修医

2001年 東近江敬愛病院 整形外科 医員

2008年 京都府立医科大学大学院 卒業・博士号取得

2008年 洛和会丸太町病院 整形外科 医長

2014年 京都府立医科大学 整形外科 学内講師



### 女性に多い外反母趾

下肢、特に膝から下の骨、筋肉、神経の障害に対応しています。外傷やスポーツ障害、慢性疾患など多岐にわたります。

#### ■外反母趾

特に多いのは外反母趾で、10人に1人の割合で女性の患者さんです。変形を放置すると徐々に悪化して、母趾の柔軟性もなくなったり、踏み返しが弱くなり、疲れやすくなります。

#### ■治療

外反母趾の治療法はケースによってさまざまなので、患者さん個々のケースにぴったりの治療法を選択することが大切です。保存治療では母趾外反矯正器具、外反母趾体操のほかに、器具靴の型取り、靴の中敷き(インソール)も使用します。保存治療でも痛みが取れない場合には、骨切り術による矯正手術を行い、正常な足の形に近づけて症状改善を目指します。

### 関節鏡下や内視鏡下手術の進歩

#### ■関節内疾患

足・足関節は手と同様に関節が多いため、関節内障害も多岐にわたります。たとえば成長期から若年に多い距骨離断性骨軟骨炎・足関節後方インピンジメント症候群(三角骨障害など)・足根骨癒合症や、中年～高年に多い母趾関節症、変形性足関節症といった疾患があります。

#### ■治療

障害の程度により異なりますが、近年関節鏡下で可能な処置が多くなってきています。

#### ■その他

アキレス腱断裂に対して保存治療と手術治療を使い分けて治療を行っており、早期リハビリを実践しています。足関節不安定症いわゆる捻挫ぐせに対して靭帯縫合術もしくは靭帯再建術を行っています。

## 足底腱膜炎の体外衝撃波治療



▲足底腱膜炎の図解

保存治療では治癒しにくい難治性足底腱膜炎に対して、体外衝撃波治療(extracorporeal shock wave therapy:ESWT)を実施しています。尿路結石の破碎装置として知られている器械ですが、整形外科用装置は6年前に日本に導入されました。保険適用となったのは2012年と新しい治療法です。低侵襲で患者さんへの負担が少なく、除痛効果や安全性が高いことから、手術療法の前に行う治療法として当院で行うことになりました。

足底腱膜炎は、かかとの腱組織が変性や炎症を起こして痛みを生じる疾患で、サッカーなどのスポーツ選手や、立ち仕事を中高年層に多いのが特徴で、人口の約10%が患するといわれています。ストレッチ、消炎鎮痛薬、ステロイド注射といった保存的治療で多くは治るのですが、1~2割の患者さんは難治で痛みが残ってしまいます。従来、難治の足底腱膜炎では、足底腱膜の一部を切除する手術療法しかなかったのですが、侵襲性が高く、傷痕が残ったり、社会・スポーツ復帰までに時間がかかるなど

保存治療では治癒しにくい難治性足底腱膜炎に対して、体外衝撃波治療(extracorporeal shock wave therapy:ESWT)を実施しています。尿路結石の破碎装置として知られている器械ですが、整形外科用装置は6年前に日本に導入されました。保険適用となったのは2012年と新しい治療法です。低侵襲で患者さんへの負担が少なく、除痛効果や安全性が高いことから、手術療法の前に行う治療法として当院で行うことになりました。



▲実際の治療の様子

の課題がありました。

ESWTによる治療法は、超音波エコーを当てて焦点を確認しながら患部に衝撃波を照射していきます。治療成績として治療後6ヵ月で約8割が症状改善を認めています。「患部に衝撃波を当てると患者さんは痛みを感じるが徐々に慣れるので、治療には麻酔は使用しません」と牧医長。患者さんの反応を見つつ、低出力から始めて徐々に出力を上げて治療を行う。1回の治療で照射する総エネルギー量は1300mJ/mm2で、治療時間は30分程度です。



▲体外衝撃波治療の機器



### 整形外科 部長 大塚 悟朗 先生

1985年 京都府立医科大学 医学部 卒業  
1991年 京都府立医科大学大学院 修了  
1985年 京都府立医科大学附属病院 整形外科 入局  
1992年 ハーバード大学 客員研究員

1997年 済生会京都府病院 整形外科 部長  
2005年 社会保険神戸中央病院 整形外科 部長  
2011年 現職

【専門分野】  
股関節、膝関節の疾患や外傷など

整形外科で治療する疾患は、四肢・脊椎の外傷、スポーツ障害、関節疾患、脊髄疾患から骨粗鬆症、骨軟部腫瘍、末梢神経障害など多岐にわたり、治療法も手術的治療、薬物治療、運動療法など様々です。そのため整形外科医はすべての疾患に精通するだけでなく、それぞれが専門分野を持ち最先端の医療を取り入れて患者さんが安心して治療できるよう取り組んでいます。これまで私たちは股関節・膝関節や脊椎脊髄などの疾患を専門分野として治療を行ってきました。そして今回「足の外科医」を迎え、「足の」患者さんの専門的な治療もできるようになりました。

### 多い高齢者の骨折

人口の高齢化により転倒などによる大腿骨骨折はますます増加しています。大腿骨骨折の場合、手術を行わないと多くは寝たきりになって

しまい、肺炎や褥瘡、血栓症、廃用症候群などになるリスクが高くなります。たとえ高齢の方であっても手術を第一選択と考えています。

### 変形性股関節症・変形性膝関節症の治療

変形性股関節症、変形性膝関節症の重症例に対しては骨切り術や人工関節置換術など手術的治療を行っています。近年はインプラントの進歩や手技の改良により人工関節の成績も向上しています。最善の治療を最適な時期に行えるように、合併症や長期成績のエビデンスに基づいた治療方針を患者さんに提示しています。

### 我慢は禁物

人工関節では関節表面の軟骨を人工物に置き換えますが、

その土台となる骨や筋肉は手術してもそのままです。痛みを我慢して歩かないでいると骨や筋肉が弱くなり、手術をしてもなかなか好結果を得られません。我慢せずに早期に手術を受けられた方が、回復も早く日常生活の動作や、運動がずっと楽にできるようになります。

### 合併症の予防

人工関節手術では感染症に対する予防が大切です。手術室は無菌室(バイオクリーンルーム)で、術者も「宇宙服」のようなヘルメットを着用します。また、深部静脈血栓症・肺血栓症の予防もガイドラインにそった対策を行っています。術後はフットポンプを用いて足の血液の巡りを良くします。さらに膝などへは冷却装置を配して疼痛の軽減や腫脹の防止につとめています。

### 早期のリハビリテーション

大腿骨骨折や変形性股関節症、変形性膝関節症の手術後は、翌日から歩行練習に取り組んでいただきます。特に90歳以上の高齢者では、命に関わる合併症も起こしやすく、早期のリハビリテーションが重要です。術前のベッド上での運動から、術後はできるだけ早期に歩く練習を行っていただきます。

### 地域医療連携室の充実

当院は急性期病院で多くの救急患者さんを受け入れていますが、一方で、急性期がすぎてもリハビリが必要な方や直接ご自宅への退院が難しい方にも必要な医療が提供できるよう地域医療連携室のスタッフが対応しています。回復期リハビリテーション病院への転院や、ケアマネージャーとの退院後のケアについての打ち合わせなど、患者さんやご家族の方が安心して治療を継続できるよう心がけています。

### 整形外科 副部長 小見山 洋人 先生

1997年 3月 京都府立医科大学 医学部 卒業  
1997年 4月 京都府立医科大学附属病院 整形外科  
1997年 10月 社会保険神戸中央病院 整形外科  
1999年 4月 済生会滋賀県病院 整形外科  
2001年 4月 朝日大学附属村上記念病院 助手 整形外科  
2005年 1月 京都府立医科大学附属病院 整形外科  
2005年 7月 京都地域医療学際研究所 附属病院 整形外科  
2007年 1月 田辺中央病院 整形外科  
2013年 4月 康生会 武田病院 整形外科



### 低侵襲な内視鏡下治療

当院の特徴として、高齢の患者さんが多く、変形性膝関節症などに対する内視鏡によるデブリードマン(悪いところの清掃)から人工関節置換術に至るまで患者さんのニーズや原因に応じた治療法を選択して行っております。スポーツドクターの資格も有しており、スポーツ外傷などによる半月板、靭帯損傷の治療なども専門分野です。治療方針としては、低侵襲を念頭に、早期のスポーツや社会復帰のみを目的とせず、一生にわたる長期の良好な成績も考えて治療方針を決定しております。

また、京都駅前の立地から観光客が救急搬送されてくる外傷や膝の損傷も多く、的確で迅速な治療によるADL復帰を常に心がけています。

### モットー

手術は決して万能ではなく、保存治療も十分に有効なことがあり、治療の選択肢に加えるようにしています。患者さんのニーズにより、保存治療、手術治療(早期の復帰を望む方法や長期にわたる良好な経過など)、それに合わせた治療方針を考えるようにしています。

### 整形外科 副部長 那須 文章 先生

1998年 京都大学 医学部 卒業  
1998年 京都大学医学部附属病院 整形外科・麻酔科  
1999年 市立島田市民病院  
2001年 公立高島総合病院  
2008年 京都大学大学院 医学研究科 卒業  
JATEC(外傷初期診療ガイドライン日本版) プロバイダー  
JPTEC(外傷病院前救護ガイドライン) プロバイダー  
MIMMS(大事故災害医療対応) プロバイダー  
IGLS(日本救急医学会) コースディレクター



### 脊椎疾患

腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、腰椎分離症など腰部疾患が多いのですが、脊髄腫瘍や変性疾患など、あらゆる脊椎疾患に対し、病態に合わせて保存的治療、および人工骨を用いた手術治療、器具を用いた保存療法などを適宜行っています。また、頸椎症、頸髄症といった首の治療も行います。手術に当たっては、手術用顕微鏡やルーペを使用し、正確・繊細・安全に心をかけています。

高齢の方は骨粗しょう症で骨がもろくなっている人が多く、病態に併せて骨粗しょう症の治療も併用しています。

### モットー

脊椎の手術は、検査や診断、治療に当たっては細かい手技の連続など、細心の注意が求められます。集中心を持続させるように心がけています。特に脊椎、脊髄領域の病気に対しては、怖いというイメージを抱く人があります。痛いの辛抱しているよりも、安心して治療を受けていただくことをお勧めします。